



北島三郎の代表曲「まつり」。
作曲の原譲二は北島自身の
ペンネームだそうですね。
この勇壮な曲に乗って歌詞
に登場する、「山の神」に着目。

別名「田の神」。田植えの頃に
山から降りて来て、稲の生育、
実りを司(つかさど)る神です。
収穫の秋には「田の神」に感謝
する祭りが行われ、祭りの終焉
(しゅうえん)と共に「田の神」は
山へ帰ると考えられていました。

興味深いことに、古代日本では、
その祭りに女性が参加すること
はありませんでした。
当時、過酷な農作業において、
男性に引けを取らない、重要な
働き手であった女性。収穫の祭り
に参加しないって、どういう事？
理由はなんと、「田の神」の嫉妬
(しつと)を買って、翌年の稲の不作・
凶作を招くと困るから。

まつりだまつりだまつりだ

つまり、この神様は
女神として考えられ
ていたのです。

女神様の焼きもちを
怖れるくらいですから、
いかに古代の暮らしと
いうものが、男女協働の
上に成り立っていたか、
いかに強固な結びつき
だったか、伝わりますね。

こうした背景が転じて、
中世以降、気の強い妻を
「うちの山の神」
と言い表すようになり、
もっと後になって

「かみさん」「おかみさん」
という呼称が一般化したと
云われています(緒説あり)。

よもや、令和の深刻な米不足に
「田の神」の関与はありますまいが、
はてさて...

※ポヌールは、お食事料金据え置きで頑張っています!!

令和七年八月二十一日夏祭り



バンド演奏

令和七年八月二十一日(昼)お祭り行事会



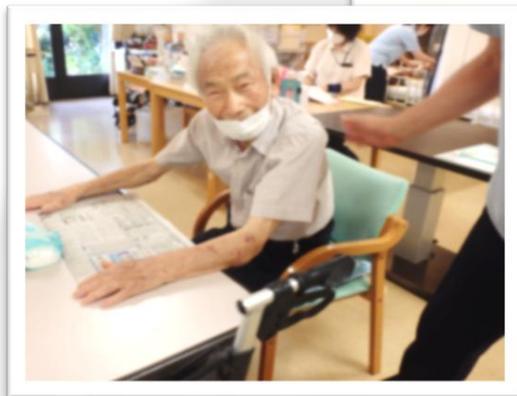
一緒に残暑をのりきましょう !!



かかとでしっかり床を踏んで、
できるだけ ゆっくり屈伸(自主トレ)。
腕の力に頼りすぎず、繰り返します。



席へ戻るまでが
りハビリ。
ご自宅でも同様に
声かけ・手添えを
おこない、転倒を
防ぎましょう。



片足バランス・キープ!
左右おこないます。



内もも同士を寄せながら、
おなかを引き込み
力を中心に集めて...

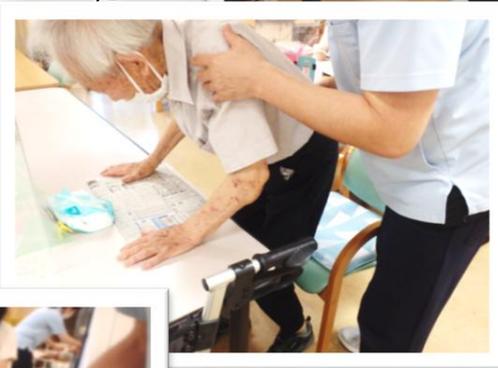
左右の傾きを
調整しながら、
歩行器歩行介助。



テーブルに手をつき
椅子へ向かって
平行移動。上体が先に
行かないよう、
声かけします。



介助者が椅子を
引き寄せる。
膝裏に座面の前端が
当たったら、真後ろへ
深く腰を下ろす。



右横へ大きく
一歩。